

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2375900277
法人名	医療法人社団福祉会
事業所名	グループホーム高須
訪問調査日	平成 21 年 3 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 6 月 1 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2375900277		
法人名	医療法人社団福祉会		
事業所名	グループホーム高須		
所在地	幡豆郡一色町大字赤羽根字北荒子18 (電話) 0563-74-2071		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年6月1日

【情報提供票より】 (平成21年3月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年10月15日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計 9人
職員数	9人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,750円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(135,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(平成21年3月2日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	5名	要介護2	0名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82.2歳	最低 70歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高須病院、山下歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスと共用のきれいな建物で、2階がグループホームとなっている。道路を隔てて同法人の病院があり、毎週、医師の来訪がある。ここでは、家族などの訪問時間の制限をしていないので、夜間でも気軽に訪問できる。入居者は職員と喜怒哀楽を共にし、週3回やってくる魚の直売者から食材を選んで買い、職員と一緒に調理したり、畑へ野菜の世話と収穫に車で出かけたりしている。また、デイサービスのレクリエーションへの参加や近くのお寺まで散歩をしたり、また、法人内の施設も利用しながら豊かに生活をおくっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ホームと地域との交流については、運営推進会議で相談でき道が開かれた。また、介護計画の見直しについて、状態の変化があった場合は、計画変更として扱うように変更した。また、トイレのドアにはかわいい細工物を掛けてわかりやすくするなど改善に向けて取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、まず職員各自で取り組み、その後ホーム全体の評価としてまとめた。また、改善点については職員全員で検討し、具体的改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 入居者の状況、ホーム内外の行事、職員の勉強会の報告、評価で明らかになった改善点などを話し合い、具体的な意見を得て改善に役立てている。運営推進会議を実施することで、市町村や社会福祉協議会とも関わりを持てるようになり、ボランティアを紹介してもらったり、婦人会長の橋渡しで児童との交流が実現するなど以前より人の出入りが活発になった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時に意見を聞くようにしているが、なかなか意見が出て来ないのが実情である。ホームでは家族交流会として「食事会」を開催し、話しやすい雰囲気の中で意見を聞こうと計画中である。相談窓口をグループホーム便りや建物内に掲示するなど工夫が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の夏祭りや秋祭りに参加している。今後は、自治会、老人会、地域活動などへの参加に向けて積極的に取り組まれることが望まれる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は全職員でつくりあげており、グループホームの家庭的な雰囲気と専門スタッフの見守りでその人らしく暮らすことができるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として夏まつりなどの行事に参加している。	○	自治会や町内会などに入会して日々の交流を図り、いざというときに協力をえられるよう取組まれることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員全員が自己評価及び外部評価を実施する意義を理解をしている。評価結果について話し合い、改善に役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4か月に1回開催し、入居者の状況、サービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、情報を共有している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で、市町村や社会福祉協議会と関わりを持てるようになった。	○	災害や事故発生時の対処方法について市町村と連携できるように検討が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホーム便りは季節ごとに年4回発行し、入居者の暮らしぶりを伝えている。金銭管理や職員の異動についても、家族の面会時に報告するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に家族から希望や意見を聞くようにしている。家族の来訪時に入居者の状況報告をしている。	○	相談窓口をグループホーム便りや建物内に掲示するなど工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動や離職はあるが、職員は何でも話し合っており連携がとれている。また、チームケアを維持することで、入居者へのダメージを防いでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者にかかわる職員の勉強会を法人内の職員の協力を得て実施するなど努力している。外部研修も全職員が年2回ほど出席し、研修報告をしており、内容は全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が近隣のグループホームの会合に出席して意見交換を行い、同業者のネットワークができるようになった。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後の入居者と職員との信頼関係は短期間で作り上げられている。また、利用に至るまでの家族との関係づくりについても工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでの生活は、職員と入居者が感情を共有し、喜怒哀楽を共にしながら本人から学ぶことには素直に対応し、支え合う関係づくりを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向は気持ちを共有することで把握し、チーム介護の中で本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当職員が提案し、課題やケアの内容についてチームで話し合い、本人、家族関係者の意見を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3か月ごとに行っている。状況の変化があった場合は、話し合いで対応を決めるのみであったが、計画変更として扱うよう改善されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況、その時の都合に合わせて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院の医師がかかりつけ医となっているため、頼れる関係となっている。医師からの助言も得て、適切な医療を受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療法人の運営要綱に沿っている。本人や家族の希望により重度化に対応できるよう体制づくりに取り組んでいる。	○	今後は、ターミナルに近い所まで看取りケアを行った経験も踏まえ、重度化した場合や終末期のあり方についてさらに方針を共有しておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	本人のプライバシーを損ねる行動はとらないように配慮されている。居室に入る場合もきちんと声をかけ、承諾を得るようにしている。ホーム便りを資料とする場合には、氏名を削除している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ、個別に対応している。家族へのファックス依頼や外出など希望に合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週3回は魚屋の訪問販売があり、気に入った魚を選んで、入居者と職員と一緒に調理し食べている。献立や食べたい物については希望を出し合い、変更は随時行われている。職員と入居者は同じ物を一緒に味わい、片づけも意欲的に取り組めるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調の変化や時間の希望に合わせて調整しつつ、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入口のプランターの花の世話、畑の作物の世話、習字が得意な方のかな書きの作品展示など入居者の趣味を続けられるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	少し遠いが畑作りも始めた。また、近くのお寺への散歩や買物にもよく出かけている。自動車にホームの車椅子を積んで、外出もよく行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。2階の小ホールが実質的な玄関となっており、その出入口に小さなチャイムを付けて対応している。単独の外出者にもそっと見守りつつケアしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一人ひとりがどうすれば逃げられるか検討しつつ訓練を行っている。	○	近所の人との協力を得られるための手立てや食品の備蓄にも工夫が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立表のチェックや食事風景を見学してもらっている。カロリー計算は行っていないが、取り組みには努力の跡が見られる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階エレベーター前の小ホールは、相談コーナー及び個別コーナーとして活用されている。居間は、天井が高く広がりのある空間となっており、入居者の作品などを目線に合わせて飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分用にベッドやテレビなどを配置しハンガー掛けも取りやすい高さに調整して、使いやすくしている。マイ急須でお茶をいれて飲んだり、好きな物や家具を持ち込んで居心地よく過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。